

令和7年度第5回「知事と一緒に生き生きトーク」発言要旨

1. テーマ：赤ちゃんふれあい体験で岡山県を元気に！
2. 日 時：令和7年10月20日（月）10:30～12:00
3. 場 所：高梁市立成羽中学校（高梁市成羽町成羽 601）
4. 参加者：思春期の健康づくり等に関わっている愛育委員、中学校・大学教員など5名
5. 知事挨拶

赤ちゃんふれあい体験は重要な取組で、岡山で育つ子どもは少なくとも一度は経験してもらいたい。また、全県に広がってほしいと考えており、体験による良い効果を期待している。本日は皆様から忌憚のないご意見をお聞きし、岡山県の未来を元気にできればと思っている。

6. 発言内容等

【自己紹介・活動など】

- ・高梁市成羽地域愛育委員会会長と高梁市教育委員会委員。赤ちゃんふれあい体験では、参加親子に危険がないように見守りをしている。この事業は旧備中町の時から長年続いている活動の一つである。
- ・親子で体験に参加しているが、今年度から愛育委員としても活動している。
- ・ふれあい体験は毎年3年生が参加しているが、1、2年時から助産師を招いた事前学習や、家庭科授業でのおもちゃ作りなど準備してきた。今日のふれあい体験は、生徒たちも私自身も楽しみにしていた。
- ・大学で公衆衛生を中心に、地域の健康課題に関する研究を行っている。ふれあい体験学習の事前学習として、本学の助産師教員を出前講座の講師として派遣するなどの支援を行っている。
- ・現在は高梁市地域包括支援センターで保健師として活動しているが、健康づくり課在籍時は、妊娠期から切れ目のない支援を心がけて、地域の健康づくりに携わってきた。3歳と1歳の子の父親でもあり、自身の子どももふれあい体験に参加している。

【ふれあい体験の効果やメリットなど】

- ・事前学習に愛育委員も参加しているが、親戚等身近に乳幼児がいる生徒は、友達の危険な抱っこを注意するなど、生徒同士で助け合う姿が見られた。お祭りなどでも中学生が小さい子に順番を譲ったり、未就学児が飛び出したりしたら声をかけるなど、率先して行動し、地域ならではの温かい交流が生まれている。
- ・親子でふれあい体験に参加することで、命の重みや子育ての喜びを実感し、温かい気持ちで帰ることができるとても良い機会となっている。生徒が優しく大切に子どもに接している姿を見て、嬉しく思うのと同時に、これからを担う生徒が命のぬくもりを感じる本当に良い機会だと思う。
- ・反抗期、思春期の中学生が赤ちゃんとふれあうことで表情や態度が和らぎ、子育ての大変さや幼少期にこんなに大切にされていたんだと親の偉大さなどに気づく機会につながっ

ている。生徒が普段見せない笑顔で楽しそうに、嬉しそうに赤ちゃんと接しており、体験を通して、心情の変化や進路選択などにもつながっていくと嬉しい。

- ・専門的なことを節目、節目で幼少期から伝えていくことが重要であると感じている。赤ちゃんとはふれあうことで、命の大切さを感じることも重要だが、妊娠・出産・育児の知識や、「自分の体を守る」こと、「嫌な時は嫌」と伝えられるようになってほしい。この体験は、生徒だけでなく、愛育委員などの参加者も感動を得られるすごく温かみのある学習であり、「みんなの命は奇跡」であるということを事前学習や体験を通してこれからも伝えていきたい。
- ・ふれあい体験を通して生徒が、「子どもに関わる仕事がしたい」と言ってくれたのを聞いて、この事業は大切に、貴重な場であると実感した。

【今後の課題等】

- ・県外出身で成羽に嫁ぎ子育てできたのは、地域のつながりや保健師の頻繁な訪問支援があったからだ。その恩返しとして愛育委員を務めているが、子どもが少なくなっていることは心配している。
- ・結婚を機に高梁市に来た。つながりのない中で、妊娠・出産を経験したが、市の支援センターでの交流や医療費の無料化、ママサポート 119 など、サポートが充実しており、安心して暮らせている。地域の高齢者も孫のようにかわいがってくれている。地域の温かさやつながりを感じながら子育てできている。
- ・3年生は進路選択の時期だが夢がない生徒が多い。目標の有無で気持ちの持ちようも違うような気がする地域での体験学習を通じて様々な出会いを増やし、そこでいろいろなものにふれ、自分の選択肢の一つにしてもらえたらよいと期待している。
- ・自分の意志で看護学科に進学する学生が減少し、志望理由も「親や先生に言われたから」という学生が多い。将来の目標も「特にない」という学生も多い。保育園などで、親が子どもの行動を細かく指示するため、子どもたちの考える力が育ちにくいと感じている。興味・関心の薄さが課題であり、早いうちから、目標を持って一歩ずつ前にステップアップして行ってほしい。また、父親は母親と比べ、保健師と関わる機会が少ないため、父親の自覚が持ちにくいのではないかと思う。
- ・ふれあい体験は、お母さん方に寄り添う支援として重要であり今後も続いてほしいと思うが、参加親子の確保が難しいという課題がある。自分の子どもが中学生になった時、この事業が本当に開催できるのだろうかという不安がある。

【知事まとめ】

この支援は全国的にも手厚く、県内全域に広がっていけばと思う。成功事例を紹介することで、「この町で暮らしたい」思う人が増える可能性がある。うまく回っている取組は、積極的に紹介していただきたい。